

上三川町総合教育会議 会議録

会議の名称	令和7年度上三川町総合教育会議	
開催日時	令和8年1月27日（火） 午後1時20分開会 午後3時24分閉会	
開催場所	上三川町立上三川小学校 児童会議室	
議長の氏名	星野光利町長	
出席者（委員等）の氏名・出席者数	星野光利 町長 増渕忍 教育長 清水智生 職務代理者 吉田由美 教育委員 松枝健一 教育委員 星真紀子 教育委員	出席者6名
欠席者（委員等）の氏名・欠席者数		欠席者0名
事務局職員 の職・氏名	総務課長 星野和弘 総務課長補佐 宮本裕之 総務課人事係長 坂入智子 教育総務課長 佐藤史久 教育総務課主幹兼管理主事兼指導主事 多賀充利 教育総務課課長補佐兼指導主事 伊藤真哉 教育総務課長補佐兼学校教育係長 植木美保子 教育総務課副主幹兼庶務係長 宮本恭代 生涯学習課長 深谷昇 生涯学習課長補佐兼生涯学習係長 小川理恵	
その他の出席者	上三川小学校長 平塚昭仁 上三川小学校教頭 沼村伸一郎 上三川小学校英語専門指導員 REDDINGTON PAUL NOZOMU	
会議次第	1 開会 2 町長あいさつ 3 議事 （1）英語専門指導員による授業視察 （2）上三川小学校の取組について （3）英語専門指導員の取組について （4）上三川町教育委員会の取組について 4 閉会	

議 事 の 経 過	
発 言 者	議題 ・ 発言内容 ・ 決定事項
星野総務課長	<p>皆さんこんにちは。定刻前でございますが本日出席予定者の皆様おそろいになりましたので、ただいまから令和7年度上三川町総合教育会議を開会いたします。私本日の司会を務めさせていただきます総務課長の星野でございます。よろしくお願いいたします。</p> <p>それでは早速次第に沿って進めてまいります。まず、開会にあたりまして星野町長よりご挨拶を申し上げます</p>
星野町長	<p>皆さんこんにちは。本日はご多用の中、教育委員の皆様にお集まりいただきまして誠にありがとうございます。また、日頃より本町の教育行政の推進に多大なるご指導ご理解を賜りますこと、心よりお礼を申し上げます。</p> <p>本日の議題ですが、上三川町における外国語教育についてでございます。町教育委員会では、上三川町を英語のまちとして掲げ、これまで町商工会と連携した英語体験創出事業や、中学生への英語検定受験料補助事業など、特色ある英語教育に取り組まれてきたことと存じます。</p> <p>ALTの活動については、町内全ての小・中学校に計8名が配置されているとともに、四つの幼稚園、保育園へ訪問も行われており、幼少期から生の英語や異文化に触れることで、将来英語が必要となった際にも臆することなく挑戦できる人材に育ててほしいと願っております。</p> <p>また、今年度からALTのうち1名が英語専門指導委員エキスパート・ランゲージ・ティーチャーELTとして配置されており、本日はこの後、英語専門指導員であるポール先生の授業を視察させていただくこととなっております。児童がネイティブスピーカーによる英語のやり取りを見て、聞いて、体験しながら学ぶ姿を拝見できますことを楽しみにしております。</p> <p>その後の協議では、それぞれのお考えをお聞きしながら進めていきたいと考えております。未来を担う子供たちが豊かな心を育み、国際社会の中で主体的に活躍できるよう、教育委員の皆様には忌憚のないご意見を賜りますようお願い申し上げます。簡単ではございますが私からの挨拶とさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。</p>
星野総務課長	<p>では次第3の議事に入ります。議事の進行につきましては、星野町長にお願いいたします。</p>
星野町長	<p>これより暫時議長を務めさせていただきますのでよろしくお願いいたします。</p> <p>本日の議事は、上三川町における外国語教育についてでございます。それでは(1)英語専門指導員による授業視察に入ります。教育委員会事務局からの説明をお願いいたします。</p>

伊藤課長補佐兼 指導主事	これから委員の皆様には、実際に外国語教育の授業をご覧くださいます。本日の授業は、英語専門指導員のポール先生による6年生の授業になります。授業を視察いただいた後に、学校長、英語専門指導員、教育委員会事務局それぞれの視点から、外国語教育の取り組み内容について説明いたしますので、まずは学校の現状をご覧くださいただければと思います。授業は1時50分から2時35分の45分間、3階のイングリッシュルームで行います。時間になりましたら、会場へご案内いたします。
佐藤教育総務課 長	少し早く開会しましたので、まだ授業まで時間があるので、可能であれば先に学校長の説明をお願いしてもよろしいですか。急遽で申し訳ありません。
平塚校長	私は大丈夫です。少々お時間いただいてもいいですか。
星野町長	では準備ができ次第、平塚先生からご説明をお願いします。
平塚校長	<p>それでは、本校の教育活動について、私の方から10分程度説明をさせていただきます。スライドを準備させていただきましたので、ご覧になっていただきながら説明をお聞きいただければと思います。</p> <p>本校の教育目標は、こころ豊かに自ら学び、頑張りぬく上小の子の育成です。児童の合言葉は仲良く、賢く、たくましくです。今年度の児童数は651名です。通常学級21、特別支援学級6の計27学級です。学年別児童数です。2・4・5学年が3学級、1・3・6学年が4学級となっています。過去10年間の児童数の推移は、ほぼ横ばいの状態で教室の数に余裕がない状況が続いています。児童は明るく素直であり、感性豊かな児童が多いです。生活態度も真面目で、一つのことをやり遂げる勤勉さを持っています。思いやりの心を持って他に接することができます。</p> <p>今年度の職員数は49名で今年度よりELTが加わりました。チーム上小が合言葉です。令和7年度学校経営計画重点項目です。こちらお手元に資料があるので、もしよろしければそちらと一緒にご覧になってください。この6項目10事項の重点に沿って、本年度の教育活動を行っています。項目に従い説明させていただきます。</p> <p>教職員の資質、指導力の向上についてです。校内における研修として現職教育を年間22回行っています。その他打ち合わせの時間を使ってミニ研修を行っています。テーマはカリキュラムマネジメント、外国語活動の指導法など多岐にわたっています。校外の研修はクラウドに研修履歴を残すことで研修管理をしています。1人が受講した研修資料を職員全体で共有したり、ミニ研修で伝達したりすることで、教職員全体へ研修の成果を広めています。本校は学級数が多いため、学年単位で動くことが多くあります。そうした中で、若い教師が学年主任に質問</p>

をしたり、指導を見て学んだりすることで、指導力の向上が図られています。校長の取り組みとしては、私が授業を参観したり、やって見せたりし、校長だよりで自分の経験を伝えたりすることで、教員の資質向上を図っています。

各教科の指導の充実についてです。本校の学校課題は、主体的に学習に取り組み、自分の思いを表現できる児童の育成で、4年間継続して取り組んでいます。年間4回、県の指導主事をお招きし研究授業を行っています。夏休みには、県教育委員会の学力向上コーディネーターを招いて、とちぎっ子学習状況調査の結果をもとに考察を行いました。週に2回、学力向上推進リーダーに授業を参観していただき、個別に指導助言を受けています。特に若い教員にとっては、教科の指導力を上げる良い機会となっています。授業でタブレットを活用することは、今はもう日常となっており、1年生から積極的に使用しています。何かトラブルがあったときには、町のICT支援員に連絡し、解決を図っています。すぐに来校してくださるので、とても助かっています。今年度より、ポール先生がELTとして、高学年の外国語活動の指導にあたっています。ELTは担任と同じように単独で授業ができます。今年度は担任の役目をポール先生が担い、ALTのマリアン先生と2人で5・6年の外国語活動の授業を行っています。児童にとっては、2人のネイティブの発音に触れ、オールイングリッシュで質の高い外国語活動の授業を受けることができます。また、全学級を同じ基準で評価することができ、学級による評価のばらつきがなくなりました。担任とALTとの打ち合わせの時間がなくなり、働き方改革にも繋がっています。

児童指導の充実についてです。4月の始業式で「最高の学級・学校を自分たちで作ってください」と児童に投げかけました。4月には、どんな学校にしていきたいかアンケートをとり、自分たちが学校の主役であることの意識づけを行いました。文字が大きく書かれているものが意見が多かったものです。本校は、様々な活動を縦割り班で行っています。その他、委員会やクラブでも2学年で活動しています。中心となって動く6年生にとっても、自己有用感が高まる活動となっています。6年生の修学旅行では、外国人の方に声をかけ質問をする、というミッションがポール先生から出されていました。身振り手振りを交え、一生懸命質問している様子です。運動会は練習を通し児童の主体性が育まれました。現在私が心配していることのひとつが、不登校児童への支援です。要因は本当に様々で、複数の要因が複雑に関係しているように思います。本校の不登校児童への支援としてアセスメントして支援に繋ぐこと、児童と保護者に寄り添いその繋がりを絶やさないことの2点を大切にしています。6月と12月に2週間ずつ教育相談週間を実施しています。1人1人の児童の言葉に耳を傾け、児童の気持ちに寄り添う教育相談は、各担任にとって重要な取り組みだと考えております。児童指導においても、小中連携の視点を大切にしています。例えば、朝の交通指導で気になった児童について、小中学校で情報交換したり、放課後の児童生徒間のトラブルについて、小中学校の教員が一緒に対応したりと常に情報を共有しながら、迅速な対応に努めております。

	<p>人権教育の推進についてです。教職員研修を2回行いました。そのうち1回は昨年人権教育で内地留学していた教師が学んだ成果を伝達しました。人権週間では、全児童が人権標語を考え、教室の前に掲示したり、お昼の放送で人権作文の朗読をしたりしました。人権集会では、各学年の代表の児童が人権標語を発表しました。今年度は本校が会場となって上三川町合同授業研究会を行いました。6年生の社会科で身分差別について考えました。</p> <p>特別支援教育の推進・充実についてです。本校においても、子供に対する好ましくない保護者の関わりがあり、関係機関とともに対応してまいりました。本校のように配慮を要する児童が多い、また、発達障害の児童が多く在籍しているなど、児童に様々な問題がある場合に、そこを丁寧にフォローすることが学校経営上のポイントとなると考えています。本校では、全ての児童を全職員で温かく育むこと、寄り添うことで児童に安心感を持たせること、そして様々な関係機関に繋ぎ連携しながら療育を推進することに努めています。その中心となる児童育成支援室では、特別支援教育コーディネーターを中心に、アセスメントと支援、教育相談、研修会の実施などにチームとして取り組んでおります。なお、こちらについては組織図をお手元の資料に配付させていただきましたので、こちらも後ほどご覧になってください。</p> <p>最後に、体力の向上を図る指導の充実についてです。体力作りの推進計画をもとに進めています。体力作りの一環として、休み時間の初めに3分間走をしています。走った後は自由に遊びます。縄跳び記録会も全学年で実施しています。写真は、体育委員会の児童が1・2年生にラジオ体操を教えたり、希望者に走り方を教えたりしている様子です。新体力テストでは、6年生が1年生へテストのやり方を教える時間をとりました。夏休み前には、家庭でできる運動を紹介したプリントを配布しました。授業でも児童の意欲を高める工夫をしています。補足資料として、保護者に配付しております学校経営ビジョンを配付させていただきました。以上で、本校の教育活動についての説明を終わりにいたします。</p>
星野町長	<p>ありがとうございました。それでは、このあとは授業視察のため会場を移動します。</p>
	<p><b>【英語専門指導員による授業視察】</b></p>
星野町長	<p>会議を再開させていただきます。ポール先生ありがとうございました。先生の方から英語専門指導員としての取り組みとして、ご説明をいただければと思います。</p>
ポール先生	<p>最大規模である上三川小学校で、全クラス一貫とした教育を提供することに今年は力を注いできたつもりです。自分がクラスを一律担当することによって、クラスによって英語の楽しさが違うという格差がなくなるかなとは感じています。学</p>

	<p>年全体が一つのチームとして同じレベルまで引き上げられたかなという感触は持っています。評価についても、私が全児童同じ目線で見ることができるので一貫した視点を持って成績をつけられるのではないかと思います。本年度の個人的な一番の収穫なんですが、これはちょっと意外だったんですが、ALTの育成の面で感じたことが大きかったです。基本的に他の市町村は、ここもそうだったのですが、学校に派遣されて文化の障壁などもあって正解がわからない日々を過ごすALTが多いんですが、孤軍奮闘するようなALTがいる中、ここはELTとパートナーのALTが常にペアで、言ってみれば現場で即役立つノウハウをその場で教えられる。稽古場が常にある状態です。その辺は環境がめちゃくちゃいい学校が出来上がったと実感しています。10年間上三川で培ってきた自分なりの日本の子供たちの心をつかむテクニックいうんでしょうか、それをALTに盗んでもらって、実践してもらって、成功まで持ってってもらえれば。今の段階で結構あうんの呼吸で授業が展開できるような感じです。とても自分は満足しています、ALTと一緒に活動していることを。</p> <p>自分のミッションなんですが、1年間一緒に過ごしてきたこのALTを来年はできればぜひ違う学校に旅に出したいなと感じています。もちろんいいのって言われたら、いつまでもキープしてはいたいんですが、自分と一緒にやってきたALTがここで身につけたことを他の学校に完全に持って行って、向こうでいかしてくれるのであれば、ゆくゆくは将来的に上三川全体がハイレベルな英語の教育ができるようになるんじゃないかと考えてます。</p>
星野町長	<p>ありがとうございました。それでは教育委員会の取り組みについて伊藤先生お願いします。</p>
伊藤課長 補佐兼 指導主事	<p>町の英語教育について本町がこれまで進めてきました取り組みとその成果等についてご説明をいたします。</p> <p>本町の英語教育は、学校教育にとどまらず幼稚園、保育園での事業、町の商工会と連携した事業など、切れ目のない取り組みを特徴としております。</p> <p>まず町のALT・ELTについてです。本町では全小中学校へのALTの配置に加えて、今年度より特別免許状を有するエキスパート・ランゲージ・ティーチャー、ELTを採用しています。ELTは単独で授業を行うことが可能であり、先ほどご覧になりましたALTとの2人体制による授業も実施することが可能になりました。複数のネイティブスピーカーが関わることで、児童生徒が多様な英語の音や表現に触れることができ、実践的なコミュニケーション能力の育成に繋がっています。</p> <p>こうした体制は、他の市町と比較しても本町の特徴の一つということが出来ます。本町には合わせて8名のALT・ELTがおり、学校での授業の他にも、幼稚園保育園訪問、むかしなつかし館での英語体験創出事業、生涯学習課のおやこdeえいごなど、学校のみならず町の様々なところで活躍をしています。</p> <p>続いて小学校、中学校での教育についてです。小学校では全校にALTを配置し日</p>

常に英語に触れる環境を整えています。町内 ALT 8 名が 1 日学校を訪問するエンジョイ・イングリッシュ・デイではゲームや活動を通して英語を使う楽しさを体験しています。小学校 3・4 年生は外国語活動として年間 35 時間、5・6 年生が年間 70 時間、さらに本町では小学校低学年、1・2 年生においても年間指導計画を作成して予備時間を活用しまして、年間 20 時間程度の英語活動を実施するなど、早期から英語に親しむ工夫を行っております。そのような取り組みの成果もあり、多くの児童が外国人である ALT と接すること、英語を話すことに抵抗を感じていない様子が見られます。中学校においてもエンジョイ・イングリッシュ・デイを継続して実施し、ALT との多様な活動を通して学びを深めています。加えて、中学生海外派遣事業として夏休みに 1 週間オーストラリア、ケアンズでのホームステイ等を実施し、実際に英語を使って生活する貴重な体験を提供しています。

また、今年度はオンラインでネイティブスピーカーと交流するジョイタイムを実施いたしました。ジョイタイムとは、ネイティブスピーカーとオンラインで繋がって対話を楽しむ活動です。今回はネイティブスピーカー 1 名に対して生徒 2 名から 3 名のグループで対話を行いました。自己紹介をしたり、画面越しにクイズを出したり、学んできた英語が通じるという実感を得ることが何物にも代えがたい経験になっていました。授業ではなかなか確保しにくい 1 人 1 人の発話時間を補う効果的な取り組みとなりました。次年度は、全ての学校で実施できるようにこの取り組みを進めてまいりたいと考えています。

続いて、英語検定の取り組みの成果と課題についてです。本町では中学生の英語検定の受験料助成を行っております。特に中学校 3 年生については、年 1 回全額補助とし、全生徒に平等な受験機会を保障しています。その結果、直近 2 年間の受験率はこれまでのおよそ 1.5 倍に増加しており、制度の効果が現れております。10 年前と比較すると英検 3 級相当の力を有する生徒の割合は、3 割以上増加しており、本町の英語力が着実に向上していることが見ることが出来ます。一方で、英語が苦手な層への支援をどうするかなど課題も見えてきています。今後は、AI や英会話アプリなどの活用も視野に入れながら、学習支援を拡大していくことが重要になっていくのではないかと考えているところです。

続いて、地域社会における英語体験についてです。本町の特徴として地域と連携した取り組みが挙げられます。先ほど、お話いたしました英語体験創出事業では商工会の協力をいただき、むかしなつかし館を舞台に英語を使ってお菓子を探す活動を行っています。むかしなつかし館では毎回 30 名を超える児童が参加しています。幼稚園の園児と保護者が一緒に参加する姿も見られます。学校以外の場で英語を使うという経験は、学びを実生活へと繋げる力となっています。現状、各小学校区では、この体育館で行う活動を年間 1 度の実施となっているのですが、どの小学校区でも大変多くの児童の参加が見られるため回数を増やすことができないか検討しているところです。

生涯学習課の事業についてです。生涯学習課では、おやこ de えいごを実施して

	<p>幼稚園から小学校低学年の子供と保護者が一緒に英語を楽しむ機会を提供しています。今年度は年間6回の実施で延べ158名が参加していました。家庭での英語への関心を高める取り組みとなっております。また、夏休みには上サマーイングリッシュこちらが小学生を対象としたもの、上サマーチャレンジこれが中学生を対象としたものを実施しました。ALT8名による体験型の英語活動です。こちらは3日間の開催で計70名の参加がありました。英語でのコミュニケーションに挑戦する中で、子供たちが異文化への理解を深め英語への自信をつけています。</p> <p>以上のように、本町の英語教育は、学校で地域で英語を学ぶものから使うものへと繋げる取り組みを進めてきました。今後もこれまでの成果を踏まえながら、子供たち1人1人が英語を通して多くの学びや経験を得られるよう取り組みを推進してまいりたいと考えています。</p>
星野町長	<p>ありがとうございました。それでは、これから皆さんと意見交換をさせていただきます。委員の皆様から、お考えとか今日感じたこととかいろいろ何でも結構です。お話を聞いていただきたいと思います。いかがでしょうか。</p>
吉田教育委員	<p>まずは、ポール先生の授業を拝見させていただきましてありがとうございました。マリアン先生との生きた英会話を聞き取る子供たちの表情がとても楽しそうで、授業の内容に関しましても、個人で考えるもの、グループで考えるもの、その中でお互いの意見を言い合えるグループ活動ができていることと、あとその中でもゲーム形式でやっている授業の内容がとても印象的で良かったと思います。それからデジタル教科書を使ってアニメーションによるリスニング、それに関してのクイズに対する子供たちの積極的な発言の授業風景がとても良かったと感じました。</p>
星教育委員	<p>やっぱり英語圏の先生が教えてくれるのはとてもいいことだと思います。表情が豊かな分、子供たちがそれに反応する姿もすごく楽しそうなんですよね。そこはすごく印象的でした。やっぱり耳に入る生きた英語というのが素晴らしいなと思いました。まず授業の内容を先に子供たちにディスカッションさせて、それからデジタル教科書を使うというのが、今までは逆だったような感じがしてそれがすごく新鮮で良かったです。</p>
松枝教育委員	<p>先週仕事でアメリカの方とウェブ会議をすることがあって、自己紹介もしたんですけど、結構戸惑う感じになって、やっぱりなかなか我々の世代だと英語を勉強する機会も少なくて、このように外国人の先生と話をできたりっていう経験が本当なくて、今の人たちはすごいなと思いましたね。あと、幼稚園でも英語の教室もあり、そういうところを見ても生きた英語の勉強ができてると思って、このELT・ALTの教育については、もっと充実していった方が町としてもいいんじゃない</p>

	ないかと思います。やっぱり英語はこれからは話せるのが当たり前になってくるのではないかと感じています。
清水職務代理者	一番印象に残ったのは、やっぱり実際に子供さんたちが楽しく受けてるなっていうところですね。誰1人気難しい顔をして授業を受けてる子がいなかったと思います、全員の顔を拝見して。先生も外国の方というより、ほとんど日本人の先生のように感じる部分もありました。先ほど、年間の英語の授業の時間のお話がありましたけど、これは国の方から示されてるとかそういうことではなくて上三川独自にということなんでしょうか。
伊藤課長補佐兼指導主事	3・4年生と5・6年生については、国で決められてます。1・2年生については、上三川町独自の取り組みとして、年間20時間前後です。
清水職務代理者	町独自の判断として、この時間というのは適当でしょうか。
伊藤課長補佐兼指導主事	もちろん多くできればそれに越したことはないんですけども、その他の教科で定められた時間もありますので、なかなか時間が取ることができないのが現状でございます。
増淵教育長	先ほどのこのポール先生の授業を拝見して、子供を雰囲気に乗せるのは相変わらず上手だと感じましたし、あの部屋自体も英語をやる部屋として天井から壁から全ての面が英語教育に特化したものとして出来上がっていて、さすがELTの力を発揮してくださってると感じたところです。併せて、ポール先生がお話していたALTを他校に旅に出すということですが、学校というのはハードウェアも大切なんですけど、そこで教えてる指導者自体がどういう指導者なのかすごく大切だと自分は思っているんですけど、それを一般の先生方でもコーチングをしたりとか、オン・ザ・ジョブ・トレーニングをしたりとか、若い人を育成しようということを学校の中でやっているんですけど、それと同じような意識でALTを育成しようとするポール先生の考え方は素晴らしいと感じました。ELTだから教え方がうまいというレベルではなくて、ELTは次の人材を育成する、そういう意識を持ってご勤務いただいていることが大変嬉しく大変ありがたいです。ぜひ今後もALTだけじゃなく、ポール先生のようなELTを育成するようなことを進めていただけるとありがたいです。
星野町長	上三川はELTのポール先生とALTの先生で8人の体制でやっていますが、例えば他市町に比べてこういうところが優れているというところはありますか。
平塚校長	私が宇都宮で勤務していたときは、ALTとの授業は週に1回あるかないかの頻度でしたので、子供たちがその先生に慣れるまでに時間かかったり、外国の方と触

	<p>れ合う機会はかなり少なかったです。特に上三川に来てびっくりしたのが、エンジョイ・イングリッシュ・デイで一つの学校にみんな集まることです。子供たちは、1人のALTと触れ合うことができるようになって大勢になると気後れしてしまう子も出てくるんですが、それが全然なくて多くの外国人の方と子供たちが普通に接することができていて驚きました。それは先ほどもお話したポール先生からの修学旅行でのミッションでも感じたことで、「外国の方に質問してくる」というミッションは強制ではなく自由だったのですが、ほとんどのグループの子どもがそのミッションを行っていました。多分そういったエンジョイ・イングリッシュ・デイとか、かなりの回数のALT・ELTとの授業のがあった上で、恥ずかしさの壁とか、緊張の壁がなくなってきたというのはすごく感じるところです。</p>
<p>星野町長</p>	<p>私は1年間のうち1回も英語を使わなくても生活できてしまいますが、絶対的にこれからの子供たちが社会人になっていくときに、我々よりもっと遥かに高いレベルでの英語の必要性が出てくると思って、以前から英語教育に力を入れて欲しいとずっとお願いしていて、その目標は英語の文法とかよりも、英会話ができること。外国の方を見ても尻込みしない大人になって欲しいと思って。だから、まさに今平塚校長先生が話をしてくれましたが、そういったことが実践されていると思っています。今日は英語の授業も含めて感動していますけど、日常の学校生活の中で子供たちが英語に身近になっていることは、私が目指す英語教育の方向であり将来のためになると思っています。英語教育に力を入れて欲しいと教育委員会の方にはずっと言ってきましたが、今日は生の授業を初めて拝見して強く感動しました。</p> <p>もう一つ、ALTの先生をポール先生が指導してレベルを上げていくというお話がありましたけども、三つの中学校と七つの小学校でなるべくどの学校の子にも同じように英語の授業の機会や体験を与えてあげたいと思うのですが、10校の子供たちに均等に英語に触れ合う機会を与えるというのも課題としてあげられる気がするのですが、一連の今の話を踏まえて、これから先のことも含めて、皆さんからご意見があればお話を聞かせていただけますか。</p>
<p>松枝教育委員</p>	<p>小中学校の英単語をリスト化して教える数を減らすという記事が出ています。文部科学省がそういう方針を出しているというのは、数を教えるというより、集中して重要なものを教えるという感じになっているんですかね。</p>
<p>清水職務代理者</p>	<p>我々の時代とは違って、英語はあって当たり前なものなのかなというのを最近つくづく感じます。どこに行っても外国の方が結構多ですが、そういったところでさっきの修学旅行の話じゃないですが、英語でちょっとでも話せば随分自分の気持ちも余裕が出てきたりすることもあると思うんです。さっき町長がおっしゃったように、ポール先生のような先生が数多く揃っていただければ、どこの学校も平均して同じような授業受けられるようになり幸いだと感じました。</p>

星野町長	全体的な英語教育のレベルを底上げするということですね。
吉田教育委員	先ほど校長先生の説明の中にもありました教師間での育成で、いろいろ研修をやったりして先生方も質を上げる状況を作ってもらっちゃってるのと一緒に、ポール先生も ALT の育成ということで、先ほど町長も言われた底上げとあわせて、子供たちも英検の受験率が 1.5 倍に上がってるっていうところで、今後ますます小学生の子どもたちが中学生になったときに英検を受ける率がもっと上がっていったら嬉しいと思いますね。助成も町の方でしていただいています、それもまた拡張していただければ幅広く受験する子が出ればいいかなと思います。 先ほど英語の苦手な子に対して、AI や学習アプリというお話でしたが、近々英語の授業とかでやっていくのでしょうか。
伊藤課長 補佐兼 指導主事	AI の活用とか学習英語学習アプリについては、まだ研究段階でいろいろ調査しているところなんですけれども、例えばメリットとしては、AI トークというもの最近出始めているんですが、AI トークだと英語が苦手な子が AI に向かって話すとそれを訂正してくれて教えてくれたり、ヒントをくれたり、逆に英語が得意な子だと自分のレベルに合わせてどんどん会話を進めることができるなんていうふうに、それぞれのレベルに合った学習が可能な AI のアプリもありますし、英語学習のアプリについても文法を学びたい子は文法のものを選んでやったり、単語力が欲しいなと思えば単語のものを選んでやったり、会話だけではなくそれぞれに合った学習をすることができるというメリットがありますので、英語が苦手な子得意な子それぞれにメリットがあるので検討を考えているところです。
吉田教育委員	今はタブレットにそういったアプリは入ってはいないんですけど。
伊藤課長 補佐兼 指導主事	現状は入っておりません。例えばジェミニですとか ChatGPT ですとか、そういうものを自分で活用することは可能だとは思いますが、そこまで児童生徒がうまく活用するレベルにはなかなか至っていないので、これからだと思います。
吉田教育委員	わかりました。ありがとうございます。
星教育委員	耳が柔らかいというか、なかなか入ってこないと発音が難しくなるので、子供たちの発音を伸ばすところで、英語能力と言っても発音を耳に入れて会話をするオンラインで会話の授業はとていいと思います。英語学習といってもたくさんあって、勉強はできるけど会話はできない子がいて、だからどこを伸ばすかということも、やはり今後は読むこともできるし、話すこともできるし、書くこともできるという 3 点を高める学習を望んでいます。

<p>増淵教育長</p>	<p>ALT の英語教育が始まったのはおそらく今から 30 年くらい前で、当時は JET という仕組みがあって外国の方 1 人に町内に住んでもらって中学校を回るっていうところから始まったんですけれど、当時は ALT が来るのは年に数回で英語に触れる機会は、直接ネイティブの発音を聞くということは少なかったと感じていました。また、ALT の先生も人数が少なかったので、なかなか溶け込めないところがあってだいぶ苦勞してたかなというふうに思っています。町長の方からお話があった上三川町の英語については、他市町に住んでいる教え子が結構オリブラに遊びに来ることがあって、そんな人たちからの話を聞くと、上三川の英語教育っていいよねということはよく聞きます。どんなところがいいのか聞いてみると、自分の住んでる町は形式的だけど上三川の方が現実的に効果があることが多い、英検もそうですし、ALT の方々が学校にいて直接会話ができるところがすごくいい、というようなことを言ってる方が複数いました。ですから方向性としては、上三川の英語教育が進んでる方向性というのは正しい方向に進んでいるんじゃないかと私自身は捉えてはいます。ただ、やっぱり教育は地道にというところが大切だと思っていますので、すぐに効果が上がるものは逆にすぐに効果がなくなる可能性もありますけど、地道に身に付けていったものは着実に身に付いていくものが多いのかなと考えると、今やっているようなことを地道に続けていながら、新しく必要になったものをまたそれも地道に入れていく、そういう方向性がいいのかなと感じてはいます。</p>
<p>星野町長</p>	<p>せっかくの機会なので、ポール先生からの現場の声として、もっと上三川町の英語教育の質を上げる、レベルを上げるために、力を入れたいことは何かありますか。</p>
<p>ポール先生</p>	<p>現在、小学校は年に 2 回、元々は 3 回だったんですが、パフォーマンスチェックというスピーキングをメインとしたテストをやっています。テストと呼びたくないんでパフォーマンスチェックっていうちょっと柔らかい感じに表現しているんですが、そこから得られるものは子供たちの物怖じしない英語に対する嫌な気持ちが一番取り去ってくれる活動だと自分は実感していて、一度中学校でやらせていただいたことがあったときには、自分は元々中学校で教えていたことがあって、中学校の段階になるともう子供たちも英語は嫌いって大声で言うし、なんだったらもうやらないって投げ出して目も合わせないくらいの感じなんですけど、小学校の段階でパフォーマンスチェックをやった子供たちは、中学校にいざ行ったときに、全員がやる気で飛びかかってくるぐらいで参加してくれたのが、自分の中では一番達成感を感じていたことですが、今ちょっと懸念しているのが、ALT 達の中、あと各学校でもう毎年何回も同じパフォーマンスチェックをやってくるからそろそろ飽きたっていう感じの雰囲気ができ上がっていて、いやでもそもそもやっているだけで、中学校、その先もグローバルにも活躍できる子供たちを</p>

	<p>つくるための良い機会を今のうちに作ってるんだよっていうのを自分は実感しているんで、他の皆さんにもそこを理解していただきたいですね。もうこれを積み重ねるだけで、この先の未来の子供たちは結構物怖じしない人材になると実感しているんで、パフォーマンスチェック、このスピーキングテストをどんどん受け入れてほしいというのが願いです。</p>
<p>星野町長</p>	<p>ありがとうございます。校長先生、何かありますか。</p>
<p>平塚校長</p>	<p>次期指導要領では、カリキュラムを各学校でいじくっていいという方向性で、そうした場合にそれぞれの学校または町の特徴を考えて、例えば英語の時間数を多くするっていうことが可能になってくる。です。これは要望とかじゃないんですが、もしかすると町全体でその辺りを力を入れていこうということで学校自体がカリキュラムを増やしていくことも可能なのかなっていうところと、もう一点は、外国語といっても異文化を受け入れる第一歩だと思うんです。それは友達を受け入れるっていうのが一つで、この町は人権のまちでもあるので。そして、英語とか、人権とか、異なる考え、それから異なる国の人たちを受け入れられる、そんな子供たちを総合的に考える目標みたいなものを学校全体で持っていてもいいのかなと今思ってるところです。</p>
<p>星野町長</p>	<p>今日皆さんの感想をお聞きして、ポール先生の授業を非常に評価していただいて、授業の内容もともかく、子供たちが全く臆することなくみんなが手を挙げて非常に楽しそうに英語の授業に参加してくれたっていうところは、教育委員の皆様共通の認識だというふうに思いました。先ほども話しましたように、上三川町で普段大人としての生活していると、ほとんど英語に携わることもなく生活していますけども、子供たちがこれから大人に成長して社会人になっていくなかに、世界に羽ばたく子供がどんどん出てきてくれれば上三川町としても非常にありがたいことでもありますし、他市町にも引けを取らないぐらい充実した英語教育をやっていることに深く感謝を申し上げます。</p> <p>ポール先生から課題も少し示されましたけど、内容の充実というのは町長部局としてもぜひ応援したいというふうに思っておりますので、教育委員の皆様と教育委員会の職員の皆さんと学校の現場と連絡連携を密にして、さらに上三川町の小中学校の教育が向上できるように、皆さんで力を合わせて推進していただきたいというふうに思います。</p> <p>それではこれで事務局に戻します。</p>
<p>星野総務課長</p>	<p>以上をもちまして令和7年度総合教育会議を閉会といたします。長時間にわたりお疲れ様でした。</p>